

令和6年度 桂小学校 「学校教育アンケート」 考察

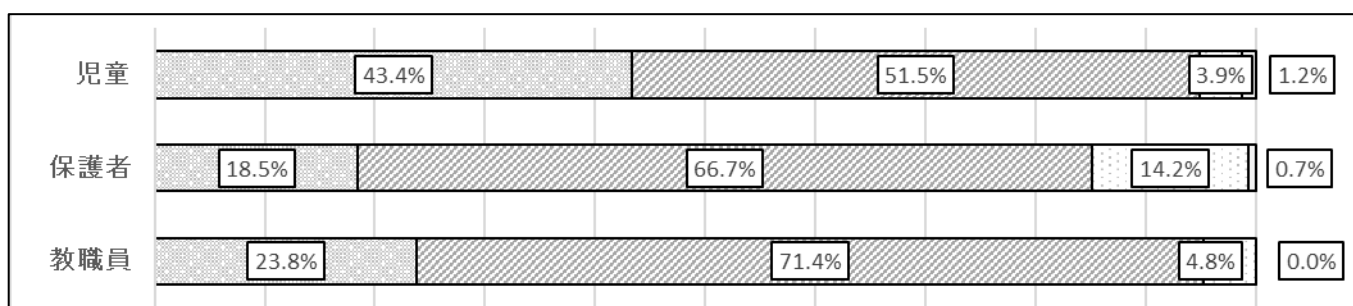
令和6年度1回目の「学校教育アンケート」を7月に行いました。保護者の皆様には、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。すぐーるでの配信によるアンケートを実施しましたところ、303件の回答をいただき、回答率は約88%となりました。

このアンケートは、桂小学校の実態を明らかにし、よりよい学校運営に活かしていくことを目的としています。回答は「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」の4つの中から選択していただきました。以下にアンケートの結果を記しますが、「よくできている」と「だいたいできている」を一つにまとめて「できている」、「あまりできていない」と「できていない」を一つにまとめて「できていない」ととらえて考察を行っています。昨年度との比較は、同じ時期に実施した「令和5年度1回目」の結果と行っています。

質問① (児) 授業がよく分かる。

(保) 子どもに基礎的な学力が身につくように働きかけている。

(教) 基礎基本が定着できるようにわかりやすい授業づくりを心がけている。

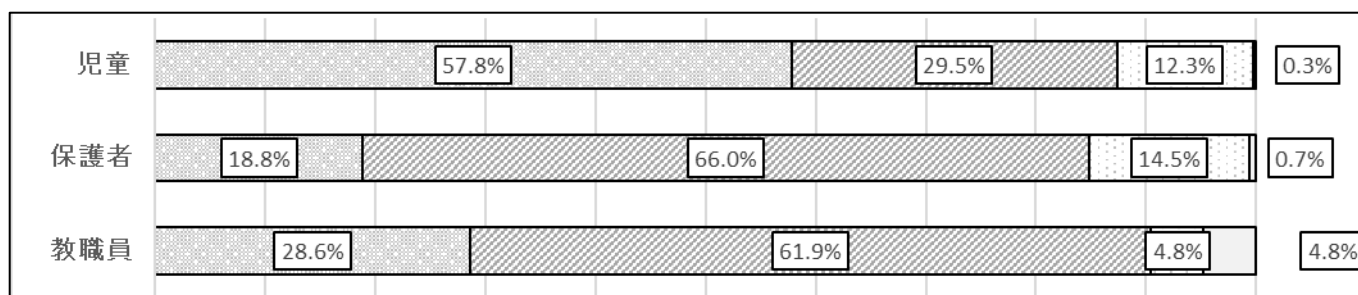


94.9%の児童が「授業が分かる」と回答しており、多くの児童が前向きに学習に取り組んでいる様子がうかがえます。しかし、昨年度の同時期と比べると「よくできる」と回答した児童が約12%減少しています。学校の教育活動の多くの時間は授業であるため、とても大切な指標であり、これからも分かる楽しい授業づくりを目指していく必要があります。本校では、授業の学習課題に応じた「めあて」と「振り返り」を意識した授業づくりを全学年で行っています。また、実感をともなったより深い学びにつなげられるよう、話し合い活動を大切に授業づくりの工夫にも取り組んでいます。そして、今年度からは、学級担任だけではなく、学年の担任・担当、低中高学年の担任・担当がチームとなり、多くの教職員が子どもたちへ関わることでより細やかな指導ができるように取り組んでいます。2学期以降もよりよい授業を目指し、継続して取り組んでいきたいと考えています。

質問② (児) 進んで家庭学習（宿題など）をしている。

(保) 子どもに家庭学習の習慣が身につくように働きかけている。

(教) 家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。



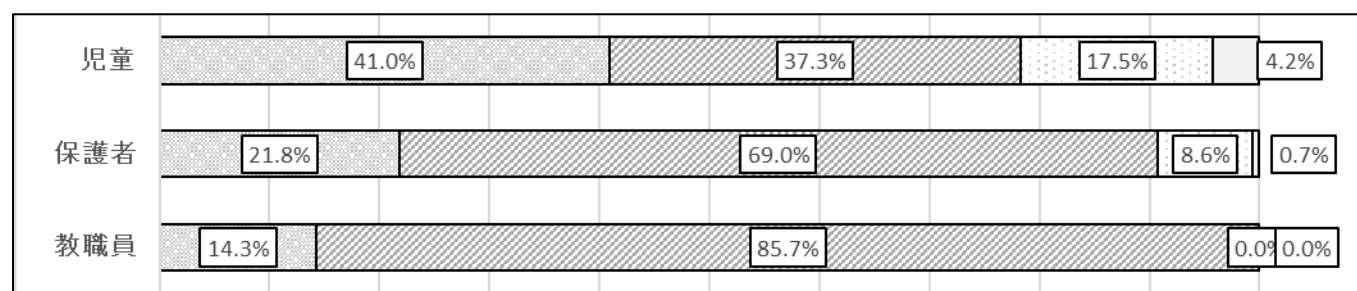
87.3%の児童が「家庭学習に進んで取り組んでいる」と回答しています。毎年90%以上の児童が「でき

ている」と回答している項目ですが、今回は90%を下回りました。12.3%の児童が「あまりできていない」と回答しており、昨年度の同時期より約2倍に増えています。宿題の内容など、家庭学習の取組が適切なものとなっているか、あらためて見直す必要があると考えております。また、本校では、「自分で学習できる力」を卒業までに身に付けさせることが大切であると考えており、3年生以上の学年で自主学習にも取り組ませています。家庭学習の意義を児童自らが理解し、進んで取り組めるように継続して指導していくことで、自ら学びに向かう児童が増えてほしいと考えています。また、家庭学習習慣の定着のためには、家庭の協力が欠かせません。各家庭でルールを定め、低学年からしっかりと習慣づけるよう取り組ませることが大切です。

質問③ (児) 授業では自分のおもいを伝えることができる。

(保) 子どもに自分のおもいが伝えられるように働きかけている。

(教) 子どもがおもいを伝えられるような授業や取組を工夫している。

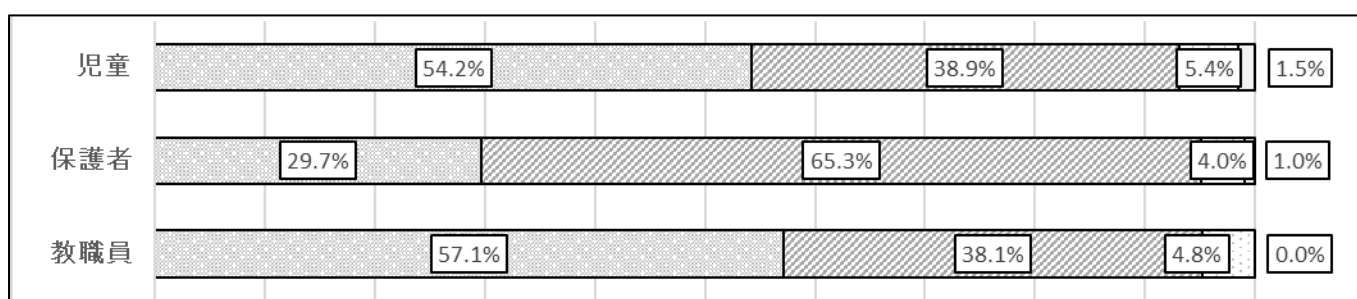


「おもいを伝えることができる」と回答した児童は78.3%で、昨年度の同時期とほぼ同じ結果でした。話し合い活動や伝え合う活動を大切にしている本校ですが、「できている」と回答している児童が80%を下回り、本校児童の課題となる項目です。「おもいを伝え合うことが楽しい!」と児童が実感できるように、「教育DX（教育のデジタルトランスフォーメーション）」の視点でICTを効果的に活用しながら、「相手の意見を受け止め、自分のおもいや考えを確かな言葉で伝え合う子」の育成を目指していきたいと考えています。

質問④ (児) 学校の決まりや約束を守っている。

(保) 子どもが学校のきまりや約束を守って生活できるように声かけをしている。

(教) 決まりや約束を守ること、みんなが気持ちよく生活できることを伝え、適切に指導している。

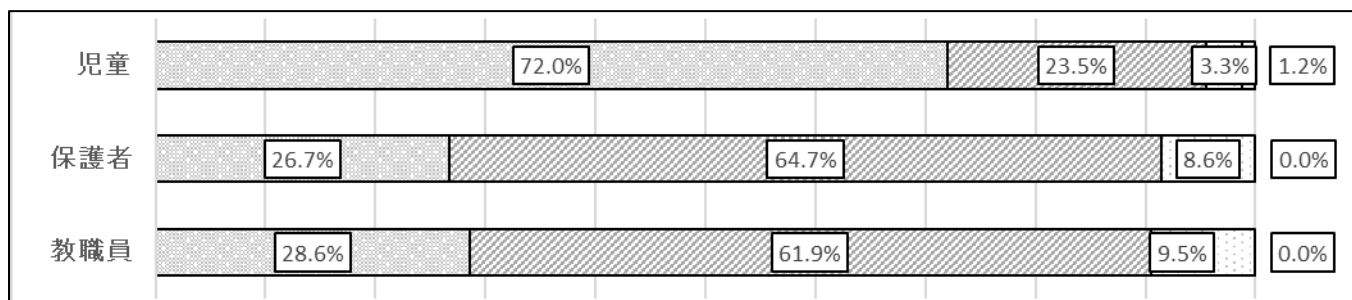


93.1%の児童が「守れている」と回答をしており、みんなが気持ちよく過ごせるように一人一人が意識して学校生活を送っている様子が結果からうかがえます。落ち着いた学習環境を維持することは、学習効果の向上や児童が安心して学校生活を送れることにつながっていきます。日々の観察を大切にし、気になることがあればその都度指導したり、「どうしていけないのか。」「どうすればよかったのか。」を児童が理解できるよう丁寧に指導したりしています。また、毎月の児童朝会では、児童会の高学年児童が中心となり、より良い学校生活が送れるように全校児童に呼びかけを行っています。こうした高学年児童の正しい姿が、低学年や中学年への良い手本となると共に、高学年としての責任感を持つことにつながっていると感じています。

質問⑤ (児) 友だちやまわりの人を大切にしている。

(保) 子どもに、人を大切にした言葉づかいや行動を意識させている。

(教) 人を大切にした言葉づかいや行動をするようにしている。

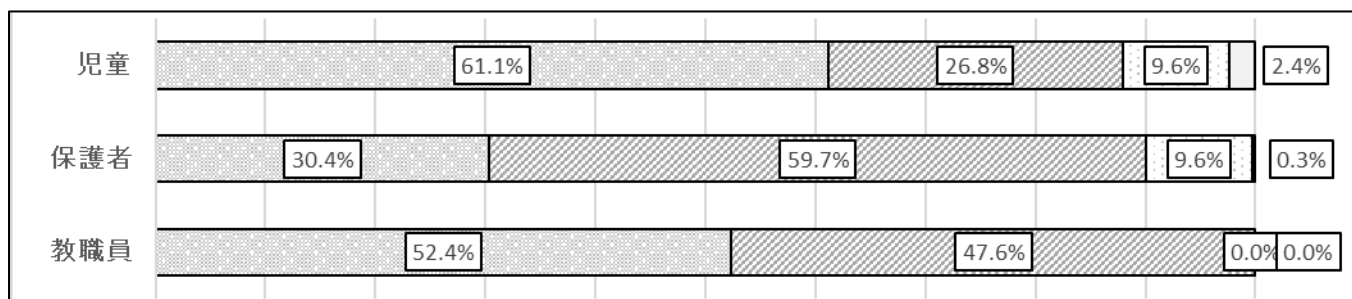


「よくできている」と回答した児童が72.0%、「だいたいできている」と回答した児童が23.5%となり、合わせて95.5%の児童がまわりの人を大切にしたい行動をとることができている状況が見えてきます。学校では、自分と違うところを認め合える雰囲気づくりや、苦手なことに努力する友だちに対して温かい声かけをする雰囲気づくりを、教職員が意識して行うようにしています。また、児童一人一人の良さや頑張りに目を向け、小さなことでもその都度積極的に声かけを行うことも大切にしています。こうした小さな積み重ねが、児童の豊かな人権感覚の育成につながっていくと考えています。「人を大切にしている」と胸を張れる桂小学校の児童がこれからも増えていくよう、学校での指導を継続して行っていきたいと思います。

質問⑥ (児) 自分からすすんであいさつしている。

(保) 子どもが自分からすすんであいさつするように、家庭で声かけや自らあいさつをしている。

(教) 子どもがすすんであいさつできるように、声かけや自らあいさつをしている。

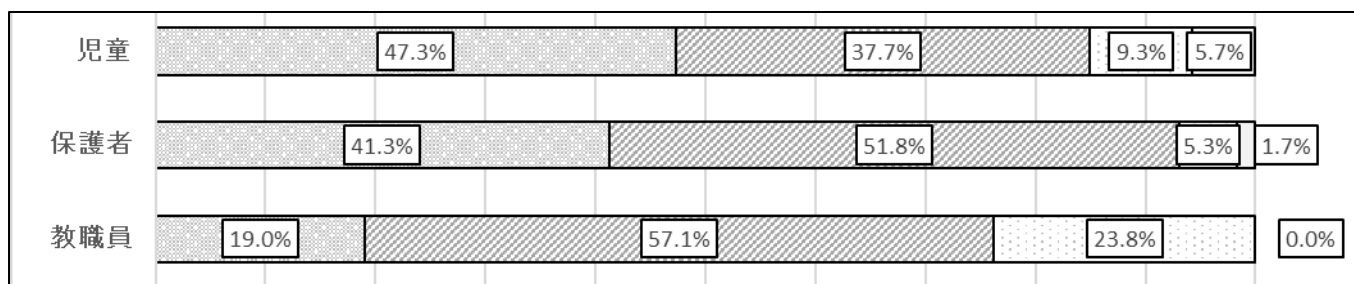


あいさつは人と人をつなぐ大切なものです。アンケートの結果からも、教職員・保護者の方の意識の高さがうかがえます。「できている」と回答した児童は87.9%で、多くの児童があいさつできていることがわかります。児童には、気持ちのよいあいさつの重要性を理解し、そのスキルを身につけて卒業してほしいと思っています。そのためには、継続した声かけが必要です。家庭・地域・学校が協力することでその効果も高まると考えています。本校では、毎月25日を「にこにこの日」として、5・6年生が交代であいさつ運動を行っています。PTAの方も一緒に取り組んでくださっており、良い意識づけになっています。自然とあいさつが飛び交う桂小学校を目指して、これからも地域ぐるみで取り組んでいけたらと考えています。

質問⑦ (児) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。

(保) 家庭で、毎日同じくらいの時刻に起きるよう習慣づけている。

(教) 毎日同じような時刻に起きるなどの基本的な生活習慣が定着するように、子どもや家庭に働きかけている。

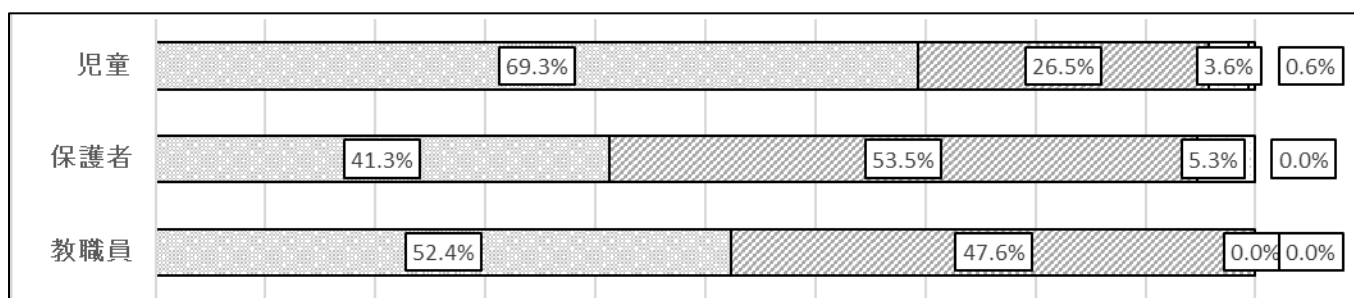


一律に「早寝早起きをする」という質問ではなく、学校生活を送るのにふさわしい起床時刻を自分で決めて実践するという事で「同じくらいの時刻に起きる」という文言を質問項目に入れています。「できている」と回答した児童は85.0%で、多くの児童が毎日同じくらいの時刻に起床していることがわかります。小学生の時期は心身の発達が著しく、睡眠や規則的な生活習慣が重要な役割を担っています。起床時刻と就寝時刻を決めて、家族みんなで協力するなどの工夫も大切です。長期休業の後には生活調べを取り入れ、児童の生活リズムの状況を把握し、改善に向けてアドバイスする取組も行っています。学校での児童の様子を家庭にフィードバックするなど、今後も家庭と学校が協力して取り組んでいきたいと思ひます。

質問⑧ (児) 安全に気をつけ、命を大切にした行動をしている。

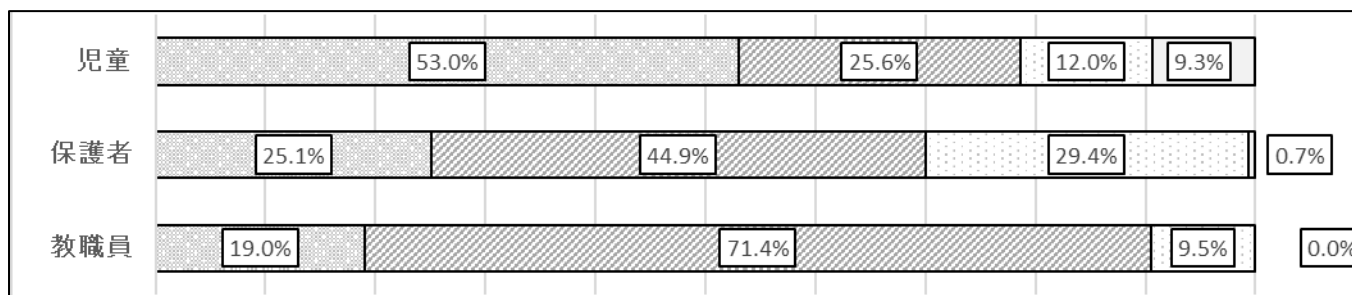
(保) 子どもに安全に気をつけ、命を大切にした行動を意識させている。

(教) 命の大切さ、命を守る行動をとることの大切さについて適切に指導している。



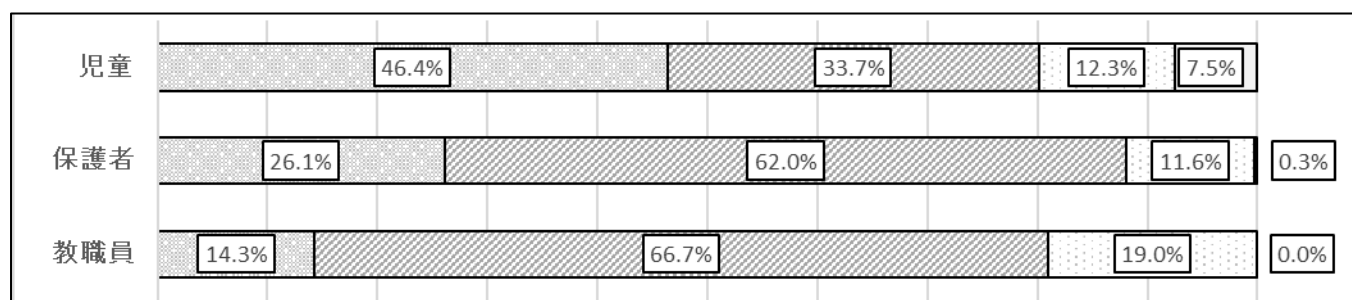
95.8%の児童が「よくできる」と回答しており、割合が最も高い項目となっています。子どもたちの安全に対する意識の高さがうかがえます。学校が安全な場所であるということはとても大切なことです。本校では毎月、校内の施設等の安全点検を行い、不備が確認された場合は、すぐに修繕できるようにしています。また、自分の命は自分で守ることができる子の育成を意識して、避難訓練や毎月の安全指導を行っています。教職員研修として、西京消防署の方による救命救急講習の受講や、校内での児童の事故等を想定した緊急時対応訓練を実施するなど、子どもたちの命と安全を守ることができるよう研修を行っています。6年生は、水難事故に対する意識の向上を目指して、着衣泳の学習を取り入れています。さらに、桂学区では、みまもり隊や地域の方による安全指導や見守り活動を積極的に行っていただき、子どもたちの命と安全を守っていただいています。引き続き、熱中症対策や災害対策など、季節や状況の変化にも対応できる生きる力の育成を目指して、これからも継続して安全指導を行っていききたいと思ひます。

- 質問⑨ (児) 自由に使える放課後の時間などで、スポーツや外遊びをして身体を動かしている。
 (保) 子どもにスポーツや外遊びで体を動かすように働きかけている。
 (教) 体育学習の充実と工夫により、体力が向上するように取り組んでいる。



「できている」と回答した児童は78.6%で、他の項目と比較して低い割合となっています。保護者の方の回答も70.0%で、児童と同じように低い割合となっています。教職員は90.4%が体育学習を通して児童の体力向上に取り組んでいると回答しています。児童・保護者の方と教職員とでは評価に違いが見られますが、これからも体育学習では、スポーツや運動の魅力を伝え、生涯を通して運動に親しんでいけるように指導を継続していきたいと考えています。また、休み時間には多くの児童が運動場に出て、外遊びを楽しむ姿が見られます。心身の健康維持や体力向上にも、外遊びは有効だと言われています。異学年や集団での遊びを通して、ルールを守ることの大切さに気付き、協調性も育ちます。そして、運動委員会の児童が、ドッジボール大会やリレー大会など、休み時間に学年で行うスポーツ大会を企画してくれています。今後も、体育学習や休み時間の外遊び、運動委員会の取組など、身体を動かす機会を設け、心と体が成長できるような経験をたくさんできるよう意識して取り組んでいきたいと思っています。

- 質問⑩ (児) 家で学校でのできごとを話している。
 (保) お便りやホームページ、子どもの話などから、学校での子どもの様子を把握するように心がけている。
 (教) お便りやホームページで学習活動のねらいや子どもの様子を伝えている。

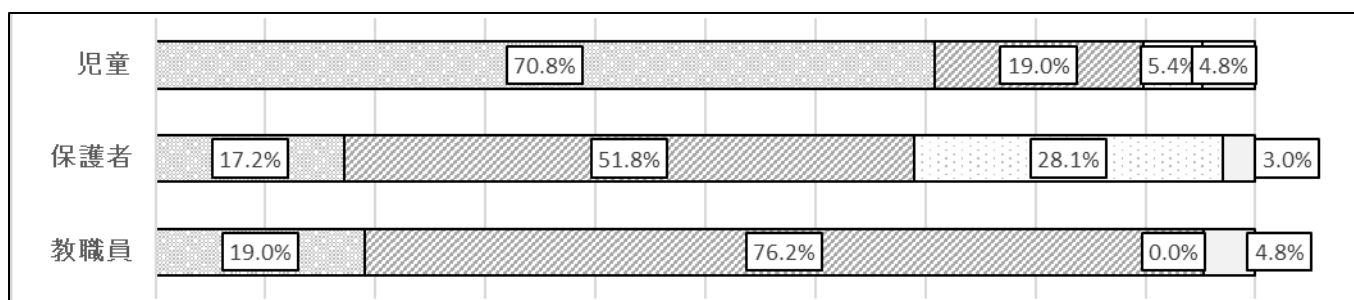


「できている」の回答は、児童が80.1%、保護者の方が88.1%という結果でした。保護者の方が学級通信や学校だより、学校ホームページをご覧いただき、学習のことや学校での出来事についてお子たちとお話くださっていることがわかります。家庭で学校での出来事を通してお子たちを中心に話をする場を設けていただいていることを、本当にありがたく思っています。これからも、学級通信や学校だより、学校ホームページを通して、学校での様子や教育活動のねらいをお知らせしていきたいと思っています。保護者の方に児童の様子や学校の取組の意図を理解していただくことは、教育効果を向上させるためにも重要です。「すぐーる」での配信を活用するなど、より使いやすくなりやすい情報の発信の工夫をしていきたいと考えています。これからも、子と親のつながりをサポートできるよう、学級通信や学校だより、学校ホームページを通して、有意義な情報を多く発信していきたいと思っています。

質問⑪ (児) PTA 行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。

(保) 子どもが PTA や地域の行事に参加できるように働きかけている。

(教) 開かれた学校を目指して、地域・保護者と連携・協力することを意識している。

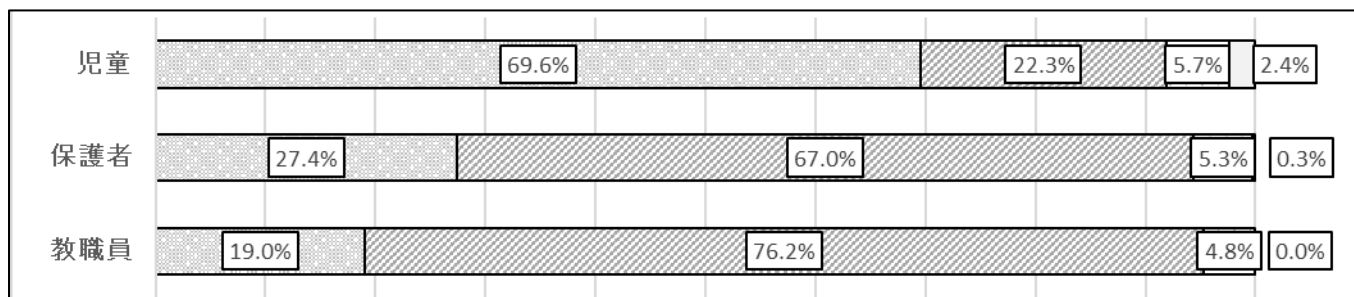


89.8%の児童が「PTA 行事や地域の行事を楽しみにしている」と回答しています。昨年度より、多くの地域行事や PTA 行事がコロナ禍以前の形に戻りつつあります。今年度も、夏休み中の8月に「ザ・かつらまつり」を開催していただきました。児童がとても楽しみにしている行事の一つで、多くの児童が参加し笑顔で楽しく活動する様子が見られました。地域の皆様や PTA の皆様にお世話になり、桂学区の子どもたちの笑顔のために様々な取組をいただいていることを、本当にありがたく思っています。教職員も開かれた学校を目指して、地域・保護者の皆様とさらに連携・協力していきたいと考えています。

質問⑫ (児) 学校では楽しく過ごしている。

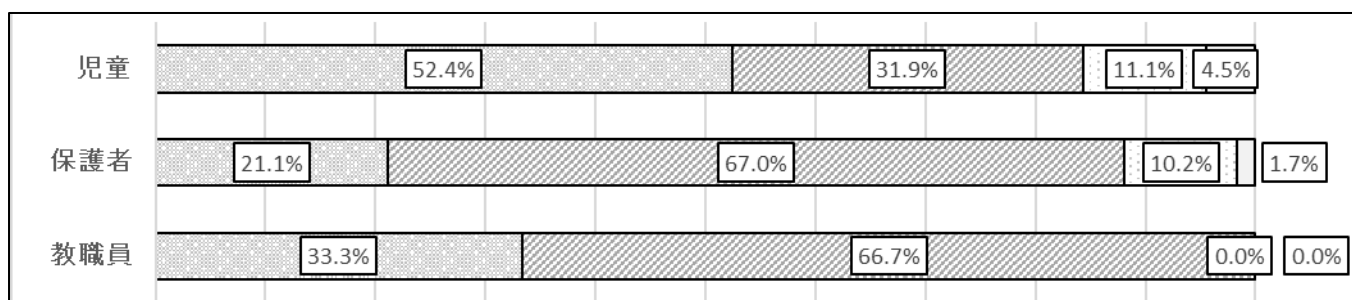
(保) 子どもが楽しく学校に通えるように家庭でも働きかけている。

(教) 子どもが楽しく学校へ行きたい通いたいと思える授業改善や経営を心がけている。



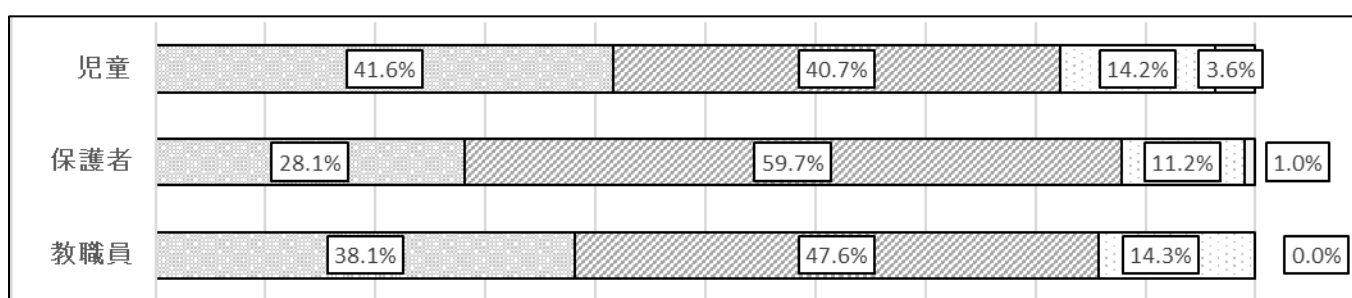
91.9%の児童が「楽しく過ごしている」と回答しており、多くの児童が楽しく学校に通うことができていることがわかります。しかし、友だち同士のトラブルや学習に対する不安が無いわけでもありません。学校に笑顔で楽しく通ってほしいというのは教職員の願いであり、保護者の方の願いでもあると思います。本校では、6月と11月にいじめアンケートと教育相談を設定しており、児童一人一人の話を聞き、悩みや不安はないか把握するようにしています。また、日々の児童の様子を観察することも大切にし、児童が抱える問題の早期発見・早期解決につなげられるよう、全教職員で取り組んでいます。一方で、8.1%の児童が「楽しく過ごしていない」と回答しています。このことを重く受け止め、楽しく過ごすことができている児童一人一人が抱えている悩みや不安を軽くできるように、全教職員で関わるようにしていきたいと思っています。

- 質問⑬ (児) 低・中・高学年での活動が増え、先生に話しやすくなった。または、話しやすい先生がいる。
 (保) 困ったときや不安があるときは、学校や担任に質問したり相談したりできる。
 (教) 子どもを真ん中に、多くの大人の目で見守り、相談を受けたとき、解決に向けて真摯に対応している。



今年度から取り組んでいる「チームで子どもを支援する」ことに合わせて、児童と教職員の質問の文言を変更しています。84.3%の児童が「先生に話しやすくなった。話しやすい先生がいる。」と回答しています。昨年は「困ったときや不安があるときは、学校の先生に相談できる。」という質問に対して、79.4%の児童が「先生に相談できる」と回答していました。質問が変わっていますので明確な比較はできませんが、先生と話しやすくなったという児童が、わずかですが増加していると考えられます。「チームで子どもを支援する」という複数の教職員による児童への関わりの成果が表われていると考えています。この取組の良いところは継続発展させ、反省するところは改善しながら、さらに「チームで子どもを支援する」ことを進めていきたいと思っています。

- 質問⑭ (児) 低・中・高学年での活動が増え、いろいろな先生が自分の変化に気づいてくれたり、ほめてくれるような声かけがある。
 (保) 子どもが自分や友だちの変化や努力しているような場面について、家庭でも話題にしている。
 (教) 担任クラスや受け持つ児童だけでなく、子どもたちへ積極的に声かけをしている。



今年度から取り組んでいる「チームで子どもを支援する」ことに合わせて、新たに設けた質問項目です。「いろいろな先生からの声かけがある」と回答した児童は82.3%でした。「子どもたちに積極的に声かけをしている」と回答した教職員は85.7%でした。教職員から児童への声かけについて、児童と教職員は同じような評価をしています。そして、87.8%の保護者の方が「子どもたちの変化や努力を家庭で話題にしている」と回答いただいています。三者の回答結果から、子どもを中心に、周りにいる大人が声をかけ、話を聞いていることがわかります。これまでも、家庭・地域にご協力いただき、様々な場面で児童に関わっていただいています。学校と家庭・地域が「チームで子どもを支援する」という意識を同じようにもつことで、子どもたちを中心とした桂学区の「チームの輪」はより確かなものになると思います。これからも、学校では教職員がチームとなり「チームで子どもを支援する」取組を進めていきますが、さらに家庭・地域の皆様ともチームとなり「チームで子どもを支援する」ことが、桂学区の子どもたちの安心と安全、そして笑顔につながると考えています。